飛騨市学園

目指す未来の創り手像

志を語り合い
しなやかに挑み続ける飛騨びと

飛騨市学園構想 SUPER COMMUNITY CAMPUS PROJECT / 第 1 章

このプロジェクトは、新しい学校をつくるものでも、飛騨市に子どもを縛り付けるものでもありません。保育園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・家庭・地域が総がかりで、予測困難な時代を生きる子どもたちに、「幸福な人生と持続可能な社会の創り手となる力」を育もうというものです。このリーフレットはその「願いや目標」を共有するために作成されました。

1 飛騨市学園にかける私たちの思い

幸福な人生と持続可能な社会の創り手育成を「社会総がかり」で進めたい

誰もが幸せになる社会を創るのは、自分の可能性を信じ、志をもってしなやかに粘り強く挑み続ける人、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、語り合い協働できる人です。子どもたちは、教室で身に付けた力を基盤に、地域の課題を解決する学びに挑戦します。子どもたちが活動する全ての場所が学びのフィールドであり、関わる全ての人が先生です。保育園や各学校、子どもたちの成長に沿った連携を縦軸に、家庭や地域へ広がるつながりを横軸に、「未来の創り手」を社会総がかりで育てます。「知りたい」「なんとかしたい」を解決しようと真剣に考え、多様な人々と力を合わせて挑戦し答えを創り出していく過程を通して、子どもたちの学びに向かう意識や行動が変わり、幸福な人生と持続可能な社会の創り手に成長していきます。 未来の創り手を育てる当事者としての決意と願いを込め、飛騨市が取り組む学び、その場所を「飛騨市学園」と呼びます。

飛騨市教育長　沖畑 康子

これからの時代に必要なのは「人に対する好奇心や豊かな想像力を育むこと」

これからの時代を生き抜いていくのに必要なのは、人に対する好奇心や豊かな想像力、またそれをもって新しい価値を生み出していくことであり、それを育むために必要なのは課題解決型の学習であると考えます。課題解決型の学習とは、多様な人との関わりの中で、その人たちが何を考え、何に困っていて、何をしたら喜ぶんだろうと想像し、そして、それをどうやったら解決してあげられるんだろうと必死に考え、みんなで話し合って共に実践していく学びのことです。これは子どもたちに限ったことでは無く、市役所や企業が日々行っていることと同様です。つまり社会で必要なことと、学びがさらに繋がる。
未来を創る子どもたちのため、飛騨市で総力を上げてこれに取り組みたいと考えています。

飛騨市長 都竹 淳也

どんな飛騨びとに育って欲しい？

予測困難な時代を生き抜く人に

予測困難な時代を幸せに生き抜くために必要なのは、小さなことに喜びを感じ、人と関わりながら暮らせる力。

多様な人との関わりから自分の生き方を考える

保育園～高校で地域で本気で生きている大人と関わりがあることは、選択肢を増やすだけでなく「やってみようかな」と思うきっかけになる。

故郷への想いを忘れずに生きていける人に

小さい頃からたくさんの人と関わり、色々な想いに触れることで、飛騨市を離れてもふるさとへの想いを忘れずに生きていける人に成長してほしい。

飛騨市出身を胸を張って言える人

親や学校だけでなく「まち全体でその子を育てる」という想いで一人一人が暮らすことで、飛騨への誇りや愛着をもった人が増えてくれたら。

2019年4月飛騨市学園構想 検討委員会が発足し、毎月1回、保小中高特支、地域の多様な皆さん約30名が集まり、これからの飛騨市の子どもたちをどう育んでいくのか、どんな子どもたちを育みたいのかについて計10回に渡り検討が重ねられ、その内容をもとにこのリーフレットは作成されました。

有識者の声

大正大学教授 飛騨市学園構想アドバイザー　**浦崎 太郎 教授**

飛騨市学園が創られていく「答えの無いプロセス」は、多様な市民が対話を通じて正解を創り出していく「大人の探究」であり、子どもたちに必要な「学び」そのものだと思います。

有識者の声

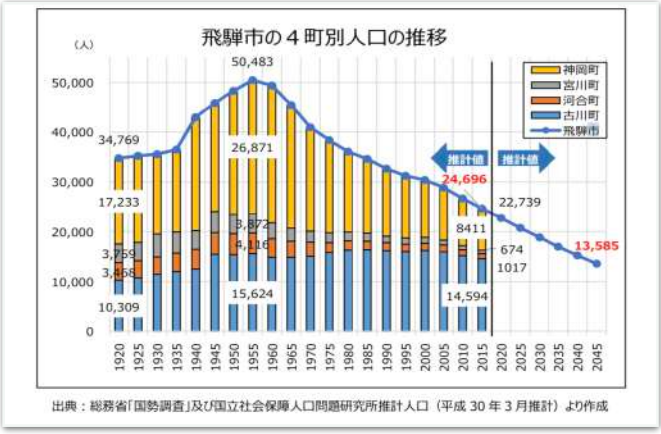
文部科学省 コミュニティ・スクールマイスター　**新谷 さゆり氏**

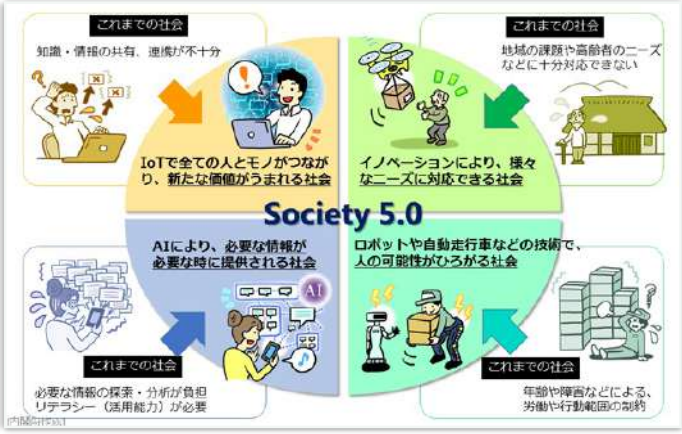
しなやかに挑み続ける飛騨びと（大人）が、未来に向かってしなやかに挑み続ける飛騨びと（子どもたち）を育む。ステキな飛騨市学園を応援し続けます。

2 なぜ取り組むのか。背景と意義。

1.社会が激しく変化する

「人口減少先進地」飛騨。AI・テクノロジーの進化も相まって社会の変化は激しさを増す



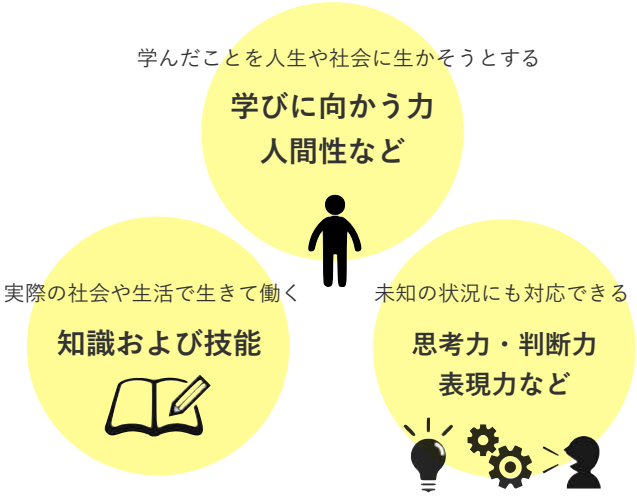


出典:内閣府 科学技術政策 Society5.0

人口減少真っ只中の日本、2004年をピークに減り始めた人口は現在1.1億人となり今後ますます減少は続くと見られています。一方世界の人口は増加を続け、2019年の77.1億人から2050年には97.7億人になることが推計され、さらに人工知能やテクノロジーの進化も相まって、社会や産業構造の変化は今後一層スピード感を増すことが予想されています。そんな中、 2020年現在約24,000人の飛騨市の人口も25年後には約13,000人程度になると推計されており、世界的に見ても飛騨市はまだ見ぬ人口減少社会の先を行く「人口減少先進地」であり、それによって生まれる文化の継承や企業の人手不足等、様々な課題に向きあう「課題先進地」であるとも言えます。

2.子どもの学びは進化する

新しい学習指導要領で示された育成すべき三つの力（資質・能力）



学校で学んだことが、明日、そして将来につながるように、子どもの学びが進化します。全国どの学校でも一定の教育水準が保てるように、文部科学省が定めている「学習指導要領」は2020年度に小学校から順に中学校、高等学校と改定されます。保育園においては2018年度に「保育所保育指針」が改定され、小学校とのつながりが強く意識されています。

新しい学習指導要領では、社会の激しい変化を見据えて、社会に出てからも学校で学んだことを生かせるよう、左記の3つの力をバランスよく育むことを示しています。また、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校・家庭・地域と共有し、連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育むことを目指しています。

YouTube 文部科学省 解説動画 社会に開かれた教育課程の実現に向けて

3 飛騨市学園ビジョン / 飛騨市で育つ子どもたちにつけたい力

【目指す未来の創り手像】志を語り合い しなやかに 挑み続ける 飛騨びと

Project 3

誇りと愛情

高校	特別支援 / 高等部	実行力 / 社会で生きて働く課題解決力	活かす / 貢献する
中学校	中学部	あきらめない強い心 / 思考力 判断力 / 表現力 / 振り返り改善する力	広げる / 深める
高学年 小学校	小学部	探究する心 / 情報収集力 / 情報分析力	考える / 関わる
低学年 小学校	小学部	疑問に思う心 / 課題設定力 / 計画力・見通す力	楽しむ / 親しむ
保育	保育	好奇心 / 身辺自立	触れる / 実感する

Project 1

相手に関心をもって聴く

願いをもって相手に伝える

自己有用感・自己肯定感

挑戦・試行錯誤

実社会の場と人々

多様性・多面性

様な場所 多様な人

主体性・協働

気付き・発見

住んでいる地域と人々

豊かな体験・遊び

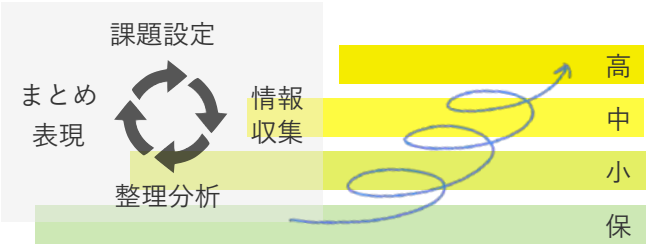
身近な場所や人々

Project 2 【創りたい地域像】みんなで育て みんなが育つ 魅力あるまち

みんなで関わる

4 2020～2022 年度 3年間で推進する 3 つのプロジェクト

保小中高特 １５年間をつなぐ課題解決型学習の実施



系統性・連続性を踏まえた飛騨市独自の課題解決力を育む保小中高特をつないで力を育むカリキュラムを作成・実施します。各園・学校や地域の特色を生かしながら、地域や地域人材を学びのフィールドに、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指します。

カリキュラム部会

Project 1

コミュニティ・スクール（学校運営協議会を導入した学校）の導入・充実 地域学校協働本部の設置・地域学校協働活動スタート

学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを推進します。各学校に学校運営協議会を設置し、学校運営や必要な支援に関する協議をします。

学校運営協議会で協議されたことは、学校だけでは実現できません。学校運営協議会と地域学校協働本部が連携協働して、より多くの地域の皆さんが子どもたちの成長を支える活動に参画するための基盤を整備します。

Project 2

園・学校・校種間交流の実施・Web会議システムによる合同授業等の実施

異年齢や他校との交流を積極的に行い資質・能力を身につけさせます。保小中高特をつなぐ課題解決型学習でも計画していきます。また、市として整備を進めているICT環境を活用し、Web会議システムで市内学校間の交流を実施します。

Project 3

事務局 ：飛騨市教育委員会 学校教育課 TEL 0577-73-7494